

IV 橋梁復興

震災前、東京市の橋梁は675橋あり、その大部分は木橋で耐震耐火構造は考慮されておらず、震災による橋梁被害は、震源地に近く揺れによる被害が多かった横浜市とは異なり、東京は火災によるものが大半でした。そのため、市民たちは逃げ場を失い、甚大な被害をもたらしました。

この惨事を教訓とし、復興橋梁は耐震耐火構造で設計されました。それだけでなく、交通の便等を考慮し街路の幅員と同一を原則とし、意匠は堅実かつ外観も美術的になるよう審査会を設け、工学的技術と審美との調和に努めるなど、東京にふさわしいすがたを目指しました。

東京市役所発行の『帝都復興事業図表』「十大橋烏瞰図」には、隅田川に架かる10の橋梁が描かれています。このうち震災時、吾妻橋、厩橋、永代橋、両国橋、新大橋は鉄橋でしたが、吾妻橋、厩橋、永代橋は床が木造だったため床が焼失、両国橋も桁の一部が木造だったため、通行できなくなりました。しかし新大橋は、橋台や橋脚が鉄筋コンクリート、床も鋼板の上にコンクリートを敷いた造りだったため、通行が可能でした。



隅田川以外の復興橋梁（聖橋）

新設する橋梁（例：清洲橋、蔵前橋、駒形橋、言問橋、聖夜等）の名称は、大正13年中に公募募集をして決定しました。

参考文献：紅林章央「橋を透して見た東京」都政新報社、2016 / 復興事務局「帝都復興事業誌 土木編 上巻」1931 / 復興局土木部橋梁課「橋梁設計図集 第二巻」1928 / 東京市役所「東京震災録 中巻」1926 / 復興府官報「帝都復興史（附横浜復興記念史）」復興府官報、1930

② 吾妻橋



施工：東京市 型式：上路型二鉄桁鋼板拱 橋長：150.000m 橋幅：20.000m 起工：昭和4年6月 竣工式：昭和5年12月20日

④ 厩橋



施工：東京市 型式：下路型鋼板鉄拱 橋長：152.000m 橋幅：22.000m 起工：大正15年9月 竣工：昭和4年9月

⑥ 両国橋



施工：東京市 型式：上路型突桁式鋼板桁 橋長：164.500m 橋幅：24.000m 起工：昭和5年2月19日 開通式：昭和7年5月18日

⑦ 清洲橋



施工：国（復興局） 型式：吊橋 橋長：186.600m 橋幅：22.000m 起工：大正14年3月19日 開通式：昭和3年3月15日

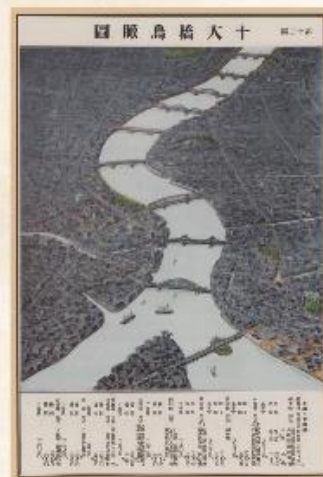
画像：国（復興局）施工：復興局「橋梁設計図集 第二巻」1928 / 吾妻橋：都立中央図書館デジタルアーカイブ「大東京三十五区」1937 / 厩橋：復興局「帝都復興記念誌」1930 / 両国橋：Tokyo Municipal Office編「THE RECONSTRUCTION OF TOKYO」1933 / 聖橋：東京市編「復興」1930

隅田川復興橋梁
竣工時のすがた



各種橋の型式等は『帝都復興事業図表』を採用

東京市役所編纂 「帝都復興事業図表」1930



① 言問橋



施工：国（復興局） 型式：上路型突桁式鋼板桁及鋼桁連納桁（陸橋部） 橋長：238.364m 橋幅：22.000m 起工：大正14年5月11日 開通式：昭和3年2月10日

③ 駒形橋



施工：国（復興局） 型式：下路型二鉄桁鋼板桁（中央）及上路型二鉄桁鋼板桁（両側） 橋長：148.793m 橋幅：22.000m 起工：大正13年7月25日 開通式：昭和2年6月25日

⑤ 蔵前橋



施工：国（復興局） 型式：上路型二鉄桁鋼板桁及二鉄桁鉄筋混泥土拱（片側） 橋長：173.196m 橋幅：22.000m 起工：大正13年9月2日 開通式：昭和2年11月26日

⑧ 永代橋



施工：国（復興局） 型式：下路型突桁式鋼板桁（中央）及鋼桁半桁（両側） 橋長：185.186m 橋幅：22.048m 起工：大正13年12月1日 開通式：大正15年12月20日

⑨ 相生橋



施工：国（復興局） 型式：上路型突桁式鋼板桁、上路型鉄筋単桁 橋長：大橋/145.974m 小橋/45.822m 橋幅：大橋/21.996m 小橋/21.996m 起工：大正13年8月15日 竣工：大正15年11月20日 開通式：大正15年11月22日 現在の橋：平成12年架設